

リアル熟議に寄せて

文部科学省初等中等教育局参事官
（学校運営支援担当）付
運営支援推進係長　風岡　治　氏



兵庫教育大学大学院
教授　日渡　円　氏

文部科学省では「地域とともにある学校づくり」を推進しています。学校は誰のものでしょう？・・・学校は子どもたちを含む地域の皆さんのものです。学校の問題を、学校の教職員だけで解決していく時代ではもうありません。

「地域の皆さんと学校とが、どういう子ども達を育てていくかを一緒に考え、当事者意識を持って子どもたちを育んでいく学校をつくって欲しい」という思いで地域とともにある学校を進めています。

皆さんから意見が出ていましたが、子ども達が地域に残り、地域の中で明るく楽しく元気よく過ごしていける学校・地域づくりをしていただきたいです。

私たちは「自分の考えや思いを持つ」ということ、「他の人も自分の考えや思いを持っている」ということを忘れていた気がします。成熟した住民の住む町の行政は必ず成熟します。リアル熟議の回数を重ねるごとに、この多様で個性的な考えや思いが具体的なイメージになってよりよい町づくり・地域づくりに広がることを期待しています。

今日の熟議で、この町の皆さんが、八頭町をどんなにいい町にしたいと思っているかが分かりました。今日一番の発見は、「この町の小中学生は立派に育っている。必ず次の八頭町をつくる人材になる」ということです。



「やず発リアル熟議　教育編パート1 」では、多くの住民の皆様にご参加頂き、ありがとうございました。様々な世代、地域、立場を超えた、主体的で、今後へつながる語りの機会になったと感じています。

一番、心を打たれたのは、小学生グループの素直な発想と意見交換でした。参加した住民のみなさんも、互いの考えを尊重しながら話すことができたのではないかと思います。

やずの魅力は、私たちの周りに当たり前にある人間関係、自然環境なのではないでしょうか。その魅力を、便利か不便か、賛成か反対か、豊かか貧しいか、という対局的な考えだけ判断せず、いのちの営みや物事の本質を語り合う中で、未来への明るい光がさしてくるのではないかと思います。リアル熟議のような井戸端会議が、家庭、地域、学校、職場など様々な場所で開かれ、本音を本気で語り合える、深い人間関係を築き、そこで出た考えや思い、夢を実現させていきたい、と強く思います。

これからも「やず未来塾」は、一人一人が住みよい町づくりについて智恵を出し合い、実践していく場を創造し、職・食・文化・福祉・教育など様々な分野で持続可能な町づくりに寄与することを目的とし活動していきます。是非、共に住みよい町づくりを考え動いていきましょう!

最後になりましたが、リアル熟議開催にあたり多大なご協力をいただいた関係者の皆様方に、この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

やず未来塾　代表　中野　裕道



やず未来塾ホームページ　⇒　http://www.yazumirai.com
リアル熟議教育編パート１の詳しい情報が見られます。
学習会等の予定も随時掲載していきます。

やりました!!

やず発 リアル熟議 教育編パート1

やず未来塾

平成 24 年 12 月 1 日（土）八東体育文化センターにて、「やず発リアル熟議 教育編パート 1」を開催しました。
町内外から 104 名のご参加をいただきました。
沢山のご参加、ありがとうございました。



けんかは、
先生が解決せずに、
自分で解決したいでな～

でも、いじめがおきたら、
自分達ではなかなか言えんけぇ、
先生に見つけてほしいな。





みんなの意見を模造紙に貼りながら話し合いをしました。



熟議って？

問題に関わる多くの当事者が集まり、問題について学習・討議することによって政策を形成していくことです。
（文部科学省ホームページより引用）

直接会って、人の意見を聞いたり、自分の意見を話したりする中で、例えば、「こんな発想ができるんだよね」とか「あまり今まで考えたことなかったけど、やっぱりここは問題あったんだよな」ということを皆で共有し解決策を考える場です。

やず未来塾では、八頭町の教育について町民の皆さんといろんな意見を共有したいと考え、リアル熟議を開催しました。



ちょっと一息。ティータイム。
お茶とお菓子で話も弾みます。

リアル熟議のテーマ
「教育を通して地域づくり、人づくりを考える」

実際に出された意見は、大きく４つに分類できました

この他にも、沢山の意見が出されました。

行　政

働ける場を八頭町に
地域の想い・意見を活かす行政
お年寄りに不便のない生活を
人を育てることに予算を



子どもたちが地域で学び、そして地域で働けるような八頭町にしたい（匿名）

- 地域の実態や意見を聞いてほしい
- 住民の意見を教育に反映させる仕組みづくりをしてほしい
- 手続きの流れや言葉を分かりやすくしてほしい
- 高齢者の生活を向上させるために交通手段をもう少し便利にしてほしい
- 大人も子どもも一緒に参加できるイベントを開催してほしい

町づくり

自分たちの町をもっと知ろう
町の未来をみんなで考えよう

- 若者が地域に定着しない（雇用の場がない）
- 田舎の良さや地域の特色を発信したら活性化すると思う
- 住民自身が八頭町の良さや課題を知ることが必要
- 八頭町をみんなでよくしよう、とみんなが思えたら、もっとよくなる



教育以外の話も沢山出来て、考えが広がりました（30代）



世代を越えての話、すごーくよかったです。色々な世代の方の意見を聞く機会、これからもお願いします。（30代）

つながり

学校

自分で学び、考える力を育てて
一人一人が理解できる授業を
人権を大切にしてほしい
地域と学校がつながろう



面白い先生の授業は頭に入っていく。先生が変わらなければ自分たちは変われない、ということを先生に知ってほしい。（中学生）



地域全体で取り組んでいくことの大切さを皆が感じていることがわかって、大変嬉しかった（50代）

- 一人一人が理解できる授業（少人数）がしてほしい
- 子どもの立場に立って考えてほしい
- 自己肯定感を持てる子どもを育ててほしい
- 自分で考え動ける力を育ててほしい
- 人の出入りのある学校にしてほしい
- 統廃合に賛成・反対（両方の意見がでました）
- 学校で出来ない体験活動を地域住民が教えてはどうか



こども１１０番を増やしてほしいです（小学生）

更に町づくりについて具体的に考えたい(50代)



家庭・地域

地域で子どもを守り育てよう
大人も子どももつながろう
家庭で夢を語り合おう

親同士が仲がいいと、子ども同士も仲がよくなるので、親同士のつながりが大切。（匿名）



- 様々な体験活動をすることが必要
- 地域の伝統を伝えることが大切
- 地域に見守られて育っていることを感じさせる
- 地域のつながりがあると、若者が地域へ定着して子どもを育てるので、地域の力につながるのでは
- 公民館活動も大切（中高生も積極的に参加してほしい）

小学生が考える地域のよい所

- 悪い事をしたら叱ってもらえる
- 知らないことを教えてもらえる

９つの小グループに分かれて話をしました。同じテーマについて話をしましたが、グループによって話題や方向性は様々でした。全体で共通するのは、「八頭町をよくしていきたい」という参加者の皆さんの想い。そしてそのためには、「地域のつながりや保護者同士のつながり、異年齢・異年代のつながりをもっと大切にしていく必要がある」ということです。今まで、このように年代や立場を超えた話合いがなかったので、「こんなに大勢、熱心な人がいらっしゃるんですね」「まず人の多さにびっくりしました」という感想もありました。

最後に、各グループの意見を共有する時間を作りましたが、参加した中学生からの「少ない人数でも地域の活性化は出来る」という意見発表には、皆さんの(歓びの?)声があがりました。小学生も活発な話し合いをしていて、子どもたちが八頭町の豊かな自然を感じ、地域の人たちの力・人材の素晴らしさを感じていることがよくわかりました。